

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601784	事業の開始年月日	平成29年3月1日
		指定年月日	平成29年3月1日
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ相模大野		
所在地	(〒252-0334) 神奈川県相模原市南区若松4丁目15-5		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	27名 ユニット数 3 ユニット
自己評価作成日	令和8年2月9日	評価結果 市町村受理日	令和8年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・レクリエーションを多く取り入れています。
- ・当ホームとして利用者様が1日1回でも笑顔になる。楽しそうに暮らしている利用者様をご家族がご覧になってご家族も安心して日々の生活を送れる。また、職員が出勤するのが楽しいなホームになる事を目指しております。
- ・敷地内に畑を耕し利用者様と世話をし収穫した野菜はみんなで頂き、楽しめるレクリエーションを行っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年3月9日	評価機関 評価決定日	令和8年4月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小田急線「相模大野」駅北口からバスに乗車します。「東通り」バス停で下車徒歩3分程度のバス通りから一本奥に入った静かな住宅地にある、3ユニットのグループホームです。

<優れている点>

職員は「主役は利用者様」という事業所理念を共有しています。「利用者は待ってられない」という意識を常に持ち、一人ひとりが一日一日を笑顔で安心して過ごせるよう、日々の確かな支援を心がけています。ホーム内では、自立した利用者が他者をさりげなく気遣ったり、食後の片付けを自分の役割として率先して動いたりするなど、互いに助け合いながら自立した生活を送っています。自宅で可愛がっていたペットとの面会を楽しみとする思いを尊重し、大切な絆を継続できる環境を整えています。また、あらゆる支援において丁寧な事前説明と納得感を重視し、本人が安心した状態で過ごせるよう努めています。たとえ反応が薄い場合でも、一人の人間として心に届く語りかけを継続し、利用者の存在を深く尊重した関わりを体現しています。

<工夫点>

各居室の入り口に杖や車いすの使用状況を示すイラストを掲示し、身体状況を可視化することで、有事の際に迅速かつ的確な避難誘導ができる体制を整えています。また、敷地内の畑では利用者とともに夏野菜を栽培しており、収穫したての旬の味覚を日々の食卓に取り入れることで、季節の移ろいを感じられる豊かな食生活を創り出しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ライブラリ相模大野
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念は事務所、各フロアーへ掲示している 新人職員など周知出来ていないこともある為フロアー会議で周知していく	事業所独自の理念として「主役は利用者様」を掲げています。前施設長と職員が話し合って策定し、現施設長もこの方針を大切に継承しています。フロア会議では施設長から、常に「主役は利用者様」であることを念頭に置くよう職員へ伝えていきます。また、支援を待たせないという意識を持って、日々の対応にあたっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入っており地域の一員として交流している	自治会の一員として回覧板を回す仕組みを運用しています。自治会の清掃活動には職員が継続して参加しています。近隣住民が庭の花を届けてくれるなど、良好な関係を維持しています。例年、自治会の納涼会に参加していますが、今年度は猛暑への対策を優先して判断しています。子ども神輿の際は、利用者が事業所外に出て見送る機会を設けています。ボランティアによるハーモニカ演奏を月2回実施し、利用者が音楽に親しむ機会を継続しています。	地域との関わり方の幅をさらに広げる取り組みを望みます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	相談来られる方へ管理者やケアマネジャーが認知症の人への対応や介護サービスの情報提供を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で報告や話し合いを行い、そこでの意見を職員へ報告しサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域包括支援センターの職員や民生委員が毎回出席しています。地域包括支援センターからは、他施設でのキッチンカー利用事例などの情報提供を受けています。また、事業所での認知症カフェ開催の検討にあたり、センター主催のカフェへ利用者と参加するよう助言を得ています。民生委員も協力的であり、地域と連携した運営を継続しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護受給者の受け入れもあり市担当者とは管理者やケアマネジャーが日頃から連絡を取り合い協力関係を維持している	運営推進会議の議事録は、市の担当課へ郵送にて報告しています。利用者の担当ケースワーカーとは、施設長やケアマネジャーが日常的に連絡を取り合っています。ケースワーカーの来訪時も含め、情報の共有を密にしています。また、グループホーム連絡会への参加を通じて、行政や他事業所との協力関係を構築しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	委員会を中心に研修を行い正しい理解のもと身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設長、ケアマネジャー、各フロアの職員で構成する身体拘束廃止委員会を設置しています。職員体制の変化に合わせ、言葉による拘束であるスピーチロックの再研修を実施し、現在は研修アンケートの集計を進めています。また、策定したスローガンをフロアに掲示し、身体拘束を行わない方針をいつでも確認できる環境を整えています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会や研修にて虐待防止法について学び虐待防止に努めている	施設長、ケアマネジャー、各フロアの職員をメンバーとする虐待防止委員会を運用しています。全職員を対象に虐待に関するセルフチェックを実施し、その結果を周知することで、自身のケアを振り返る機会としています。不適切な対応につながりかねない言動については、その場で即座に注意喚起を行うとともに、個別面談を通じて継続的な指導を行うこととしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前、利用されている方がいました後見人の方と面会時にお話しをお伺いし利用様のサービスに関わる情報を共有しました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時や改定、解約の際、利用者やご家族には十分な説明を行い理解と納得をはかっている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話連絡で近況報告を行い意見や要望を伺う機会を作っている 苦情相談窓口についても説明を行っている	面会時や電話連絡の際に、家族の意見や意向を確認しています。散歩の機会を増やしてほしいという意向に対しては、協力医や看護師と相談しながら対応を検討しています。SNSでの情報発信を期待する声もあり、日々の様子を伝える一助としています。毎年受審する外部評価の家族アンケート結果は職員間で回覧し、各自が意識を持って日々の支援にあたるよう共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議やカンファレンスにて職員の意見や提案を出し合い話し合っている 個別で面談を実施している	施設長は各ユニットの朝の申し送りに参加し、現場の状況確認や職員の意見収集を行っています。出退勤時に事務所の前を通る職員と直接話す機会もあり、現場の声を吸い上げています。今年度は利用者ケアの向上を目指す職員が提案を行い、法人へ稟議を申請しています。その結果、介護ベッドを買い換えるなど、現場の意見を具体的な環境改善につなげています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個別評価を行っている	4半期ごとの個別評価に加え、年2回、施設長との面談による人事評価を実施しています。1時間の休憩時間は、休憩室の利用だけでなく、自宅に戻ることや買い物などの外出も自由としています。職員がリフレッシュできる時間を確保し、それぞれのワークライフバランスを優先した働き方を考慮しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新職員は入社時研修を行っている またOJTを実施している 毎月社内研修を行っている	法人の年間計画に基づいた動画研修や、ブロック別のライセンス研修など、スキルアップのための体制を整えています。資格取得については、費用の全額補助や取得時のお祝い金の支給など、手厚い支援を行っています。新入職員のOJTは期間を一律に定めず、本人の力量に合わせた進め方としています。また、特定技能実習生の受け入れも行い、多様な人材の育成に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者が外部研修で交流し入居相談等、連携している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時の状況を基にお声掛け傾聴し他利用者との交流援助や職員との信頼関係を行い安心して過ごしていただけるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にご家族の不安や要望を話す機会を作り良好な関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを行い課題分析しご本人とご家族が必要とする支援を適切に行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯たたみや新聞たたみなど出来ることはお願いし支え合い暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族への近況報告や相談などまめに行い共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の馴染みの方の面会は制限なく行っている ご家族の協力を得てなじみの場所へ外出されている方もいる	家族のほか、近隣の友人や学生時代の仲間など、馴染みの人との面会機会を設けています。また、大切にしていたペットとの面会も許可しています。新聞の個別購読やゲーム機を用いた脳トレなど、入居前からの生活習慣の継続を支援しています。家族との一時帰宅や墓参など、住み慣れた場や大切な場所への外出も継続しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係を把握した席の配置やレクリエーションを通して交流支援を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても暑中見舞いや年賀状のやり取りをしている方もいる 必要時は相談や支援出来るように努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中やご本人の行動、ご家族からの情報などから思いや希望、意向の把握に努めている	入居前の丁寧なアセスメントに加え、日々の会話を通じて本人の思いや意向を把握しています。会話が難しい場合は職員との関わりの中でのちょっとした表情や動作から推し量るようにしています。ケアの際は本人が安心できるよう、事前の声かけを欠かさず行っています。声かけに対して目立った反応が見られない場合でも、本人は理解しているという認識に基づき、丁寧な対応を行うよう施設長から職員へ伝えていきます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にそれまでの生活歴や暮らしなど前任のケアマネから引継ぎ情報収集を行っている ご本人やご家族からもお聞きし情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日頃の様子を観察、記録し現状の把握に努めている 職員間での情報共有にも努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスの実施やサービス内容のモニタリングを実施している	利用者の日常の状況を把握し、カンファレンスを開催してケアの内容を検討しています。医療関係者の助言に加え、本人の「動けるうちは動きたい」という意向や家族の要望を計画に反映しています。ケアプランの見直しは6ヶ月ごとに行うほか、本人の状態の変化を把握した際はその都度検討し、随時更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録、カンファレンスなど職員間で情報共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の思いや希望やご家族の意向を都度確認しその時々々のニーズに答えることが出来るように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議から情報を共有している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に協力医療機関の説明をし現在は2か所の医療機関から希望する主治医を決めていただいている	利用者は2ヶ所の協力医療機関から選択し、月2回の訪問診療を受診しています。歯科については、毎週来訪する歯科医師と歯科衛生士による診療を、希望者が受診しています。週1回、看護師が健康観察のために来訪するほか、必要に応じて精神科医やマッサージ師も来訪しています。皮膚科などの通院や専門医の受診が必要な場合は、家族の協力を得て同行してもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを訪問看護またはオンコールにて報告相談し適切な受診や看護を受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時安心して治療できるよう病院関係者との情報を共有し病院関係者との関係作りに努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族へ重度化した場合や終末期について説明を行っている 看取りを行っている事も伝えている	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を用いて、事業所で対応可能な範囲を説明し、家族から同意を得ています。今年度は看取りケアを実践しており、状況に合わせた声かけを欠かさず行っています。歌が好きだった本人のために、皆で歌を唄うなど、その人らしさを大切にされた支援を行っています。初めて看取りに関わった職員にとっても、この経験がケアへの自信を育む機会となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修や勉強会を行っている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練を行っている	年2回の消防訓練を実施しており、水消火器を用いた訓練では未経験の職員が技術を習得しています。業務継続計画（BCP）を策定し、感染症対策などの研修を行っています。発電機や簡易トイレ、3日分の食料などの備品を整備しています。避難誘導の際に利用者の状態がひと目でわかるよう、車いすや杖の使用状況をイラストにして居室の扉に表示しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を実施している 一人ひとりの人格を尊重した対応、プライバシーに配慮したお声掛けや対応をしている	職員はプライバシー研修を通じて学びを深め、人格を尊重した言葉かけに努めています。SNS等への掲載については、同意を得ていない場合は顔が分からないよう加工を施しています。介助の際は、本人が「これから介助を受ける」と認識できる声かけを行うよう、施設長から職員へ伝えています。また、夜間に居室の扉を施錠する利用者の習慣についても、本人の意向を尊重した対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用様が意思表示できるような信頼関係、お声掛け、対応、自己決定を促すような働きかけをし支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方一人一人がご自分のペースで過ごせるよう1日のスケジュールは決まっておらず希望や状態、状況に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容を利用していただいたり、ご自分で出来る方はご自分で洋服を選んでいただいている 一緒に選んだり好みをご家族に聞いてりして支援している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立の読み上げをしたりメニューについて一緒に話をしたり、食事の挨拶などしている 食器やエプロンなど個別の物を『自分の物』としてつかっていただいている	専門業者の食材を活用しながら、ご飯と汁物は施設内で手作りして提供しています。利用者が進んで食器拭きを手伝うなど、日常生活の中で役割を持つ機会を作っています。法人の栄養士が来訪し、体重や食事を管理しています。ハンバーガーを購入して公園で食べる機会を作ったり、献立をマグロたたき丼に変更したりするなど、食事を楽しめる工夫をしています。また、園内で育てた夏野菜を食卓に取り入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は記録し職員間でも申し送りを行っている 水分が摂りやすい時間などを考え提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科 週1回あり 口腔機能維持管理にかかわる助言内容のもと、その方の自立度に合わせ声掛け、促し、助言を行っている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入所後はアセスメントしその方のリズムを把握している リズムや習慣を活かして出来る限りトイレでの排泄が出来るよう、また維持できるように努めている	数名の利用者が布パンツを使用しており、失敗を繰り返しても本人が気兼ねなく過ごせるよう配慮しています。安易にパッド等へ変更せず、本人の状態や意欲を慎重に見極めて支援しています。意思表示が難しい利用者に対しても、定時の誘導を行いトイレでの排泄を継続しています。排便のない日数を業務日誌で管理し、医師の指示に基づく薬剤の服用を適切に行えるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分や運動(歩行など)をうながしている 医師に相談し一人ひとりその方のリズム、パターンにあった下剤などでの調整をお願いします行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	提案時に気が乗らない時は次の日に対応するなど出来る限り個々に応じた対応をしている 体力や生活リズムも考慮している	立位の保持が難しい場合は1階の機械浴槽を活用し、ユニットを問わず安全な入浴を提供しています。入浴ごとに湯を入れ替え、衛生面と感染症の予防に配慮しています。入浴中は職員との会話や歌を歌うなど、リラックスして楽しめるよう支援しています。入浴を好まない利用者に対しては、不安になる気持ちとその背景を把握し、本人が安心できる関わり方を職員間で共有しながら、入浴への動機づけを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのリズムや生活習慣、体調や体力に合わせて休息や気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報はファイルに保管し職員間でも周知出来るようにしている 症状の変化の確認し必要時は医師への報告、相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様個人の生活歴や職歴等の情報収集を行い、やりがいや喜びを感じていただく事の出来るお手伝いやレクリエーション活動を心身の状態に合わせて1日の活動に取り入れている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の外出はご家族の対応にて行えている 散歩や外気浴を行っている	限られた人員の中で時間をやりくりし、短時間でも戸外に出ることを目指して散歩や外気浴を行っています。地元の神社での花見や初詣、麻溝公園への外出など、季節を感じる機会を設けています。また、家族の協力を得て、自宅訪問や散歩、外食、買い物、墓参りなどにも出かけています。その際は、本人がスムーズに外出を楽しめるよう、準備や移動の支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の許可を得て行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の持ち込み可 持ち込み以外の方は施設の電話を使用しています また電話があった時は取り次いでいる		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着いて過ごしていただけるよう共用空間は音、光、温度などに配慮している 生活感や季節を感じるような飾りつけや空間作りを工夫している	快適に過ごせるよう空調による温度管理を行っています。エアコンの風向きが気になる利用者には、座席を変更するなどの個別対応をしています。車いすや歩行器の使用に支障がないよう、共有スペースの動線を確保しています。畑での夏野菜栽培のほか、玄関には季節の生け花を飾っています。庭の植栽や近隣の風景を生活の中に取り入れることで、日常的に季節を感じられる環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを活用し利用者で会話したり一人になりたい時などに活用している		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や身の回りの物は慣れた物や好みの物を持ってきていただいている	各居室にはエアコン、ベッド、照明器具、クローゼットを備えています。その上で、ご本人が自分らしい環境で心穏やかに過ごせるよう、使い慣れた寝具やカーテン、座布団のほか、位牌、ぬいぐるみ、テレビ、家具といった馴染みの品々を持ち込んでいます。また、部屋の間違いを防ぐ必要がある場合は、居室の扉に大きな文字で名前を表示するなどの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	それぞれの導線を考慮しフローアを整備している ご自分で出来ることを継続できるように物の配置をし支援している		

事業所名	ライブラリ相模大野
ユニット名	2F

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)
	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)
	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)
	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)
	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)
	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)
	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)
	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまに
	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	新人職員が多く周知しきれていなかった 法人の理念は各フロアや事務所に掲示してある		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の研修に参加 施設主催で企画を立てて催しを開催出来るようにしていく		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度運営推進会議から情報を開催している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設長が普段から連絡など職員に周知しケースワーカーとは協力関係を維持するようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を開催しスローガンを決めてゼロにしている		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	他施設等の虐待事例を周知し施設内で虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	2Fでは成年後見人制度を利用されている方はいませんが他フロアでは利用されている方がいるので、その方を通じ学ぶ機会にしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に十分な説明を行っている 家族からの質問に対し丁寧に答え信頼関係が出来るようにしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している 必要な連絡を行うなど意見を伺う機会を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りやカンファレンスで職員から意見や提案を聞いている 必要時には個別面談の機会を設けている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	四半期評価を実施している 各職員の生活環境を理解し就業環境への整備に努めている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得制度があり初任者研修、実務者研修の費用負担、各自の知識、技術、能力により法人以外の研修を受講している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会などを開催しサービスの向上に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時の情報を基に声掛けや傾聴し他利用者や職員と安心して共同生活を送れるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族に不安や要望を聞き取り良好な関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ニーズを見極め適切な対応(マッサージ等)行えるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様と家事活動(食器洗い、食器拭き、テーブル拭き等)出来ることをお願いしたり職員と一緒にするなどして支え合う者同士の関係作りに努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のお便りで状況報告をおこなっている ご家族が面会に来られた時や電話で施設での生活を相談され報告をするなどご本人を支えてゆく関係作りに努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人の面会は積極的に受け入れている 家族の協力でかかりつけ医への受診継続する事で関係が途切れないように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の関係性を考え席を決めている利用者様同士の関係を観察し必要時には職員がさりげなく声掛けし橋渡し役を努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ転居や入院のための退去されたご家族と暑中見舞いや年賀状のやり取りがある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話の中からお本人の思いやご家族の意向を聞きご本人の思いに沿った生活の実現に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴など聞き取りアセスメントを行いご本人、ご家族から思いを語る機会を設けて情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日頃の様子を観察しユニットで申し送りiPad入力し各自で確認し情報を共有し現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員でアセスメントを行っている医療関係者を含め必要なケアについて話し合い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録はiPadへ入力し職員間で情報共有している 申し送りノートの活用、ユニット内でのカンファレンスなど職員の気づきの共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の希望や家族の意向を都度確認しその時々ニーズに答えるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会が開催している催しに参加している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	救急搬送時等もご本人やご家族の希望の病院へ搬送する手配をとったりホームとの関係性がある病院もご家族へ説明し納得して受診するようにしている 主治医への状況報告を確実にし医療関係との関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診が月2回、訪問看護が週1回あり入居者の状態の変化は常に報告している 緊急時には24時間オンコール対応があるので特変時など助言や指示を受けることができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣病院の地域連携室に相談、受診、入院出来る関係性を構築している 入院時には安心して治療に専念出来るようにご家族、病院関係者と情報を共有し関係作りに努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族様と重度化や終末期について説明している またお看取りを行っている事もお伝えしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルはある 訓練は実施出来ていない		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行っている 避難経路や消火器の使用の確認を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格に合わせて声掛けを行い、その方の人格を尊重するケアを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の意思表示を待つケアに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のスケジュールを決めず、できるだけご利用者様の意向に沿ってその方のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自立度の高い利用者様にはご自身で選んでいただき、選択出来ない方は職員が選んでいる ヘアカットは理美容を利用している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には食器洗いや食器拭きをお願いしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量はiPadに入力し職員間でも申し送りしている 毎月栄養士が体重や食事量をチェックし管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科 週1回あり 口腔機能維持管理にかかわる助言内容のもと、その方の自立度に合わせ声掛け、促し、助言を行っている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入所後しばらくはその方のリズムをつかむためアセスメントを行い、間隔の長い方は時間でお声掛けする等トイレで排泄出来るように支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動を促すよう取り組んでいる 主治医と連携してその方のパターンを把握して下剤の調整を行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ベースになる曜日は決めているがご本人の体調や希望によって曜日や時間をずらす対応をとっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中には適度な運動を取り入れて夜間の安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情はファイルに保管し職員間でも周知出来るようにしている 症状の変化の確認し必要時は医師への報告、相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自立度が低く全てのご利用者様に対応出来ていないが役割や楽しみ気分転換などの支援、レクリエーションなどを行っている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は外気浴や散歩をする等気分転換を行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様が管理している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望がある場合は施設の電話を利用している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中は陽の光を取り入れて過ごして ます 和風モダンを基調としているので混乱を招くような刺激はありません		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	季節装飾をレクリエーション活動で作って飾ったりしている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物を持ち込んでいただき、ご家族の写真などを飾ったり居心地の良い空間作りに努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ADLを考慮した導線作りや混乱しない配置を考えてます		

事業所名	ライブラリ相模大野
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を職員が目にとまる事務所に掲示している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の散策 夏祭りの参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会清掃の参加		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催している 施設の状況報告やご意見をいただきサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設長が日頃から連絡を取り協力関係を築くようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に委員会を開催勉強会を通して全職員に周知を行っている 目標を設定し掲示している		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に委員会を開催勉強会を通して全職員に周知を行っている 目標を設定し掲示している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立援助事業や成年後見人制度について管理者から説明を受けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、十分な説明を行っている 利用者、ご家族の不安や疑問をお伺いしご理解していただけるよう対応している		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を設置している ご要望を受け止めサービス向上に活かしている 面会時にもご家族のご要望をお聞きするよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や日々の会話の中で意見や提案を聞いている 話し合いの中で改善できることは変更している		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	四半期評価を実施している 職員の意見を聞き職場環境や条件の整備に努めている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のスキルに合わせた外部評価研修に会社費用負担で受講している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修などで同業者と交流する機会を作り勉強会や相互訪問などの活動を通じてサービス向上に活かしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアプランにて不安やご要望をお聞きしてアセスメントを行っている 日々の観察で言葉に耳を傾け不安の無いよう対応し安心していただける関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始前からご家族の不安や要望に耳を傾け安心していただけるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用開始前からご本人が必要とするサービスの提案を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の出来ることを観察し家事と一緒に暮らしを共にする関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のお手紙で活動内容や状況報告を行っている ご本人状態によっては家族のきずなを大切にしながら相談を行っている 行事参加のお声掛けを行っている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人の面会を受け入れ関係性を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々観察し利用者同士の関係を把握している ソファでテレビを見たり談笑出来るよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方のお話を聞いて支援を行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情から思いや希望の意向の把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴などを聞き取りしている 記録を確認しサービス利用の経過などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	記録や申し送りを各自で確認し把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員でモニタリングを行いご家族やご本人の意見も頂いたうえで介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	iPadに記録し業務日誌への記載を行い職員間で情報共有している カンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人や家族のニーズに対応できる事は柔軟に支援やサービスの多機能に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会納涼会に職員と参加可能なご家族と利用者様で参加 近所の神社へ初詣に参加		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	外部受診が必要となった場合ご本人やご家族の希望を第一に考え往診医と連携し支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診が月2回、訪問看護が週1回あり入居者の状態の変化は常に報告している 緊急時には24時間オンコール対応があるので特変時など助言や指示を受けることができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は病院関係者と情報を共有し関係作りに努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族へ説明し意向を伺っている 終末期にはご本人やご家族の意向を再確認し関係者と連携を取りチームケアを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを掲示しているが定期的な訓練は行っていない		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や入浴介助の際は特にお声掛け対応に注意して行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望をお伺いし自己決定出来るようなお声掛けや選択が出来るお声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴のお声掛けに拒否があった場合は無理に入浴せず時間や日にちをずらして行っている レクリエーションの参加も希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で選ばれる方は意志を尊重し、選べない方は2択にするなど支援している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭き等お願いしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量はiPadに記録し変化があった場合は申し送りで周知している 水分は1000cc/1日を目安に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後お声掛けし口腔ケアを行っている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日々観察し変化があった場合は必要に応じて介護用具を検討する		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や運動のお声掛けを行っている 医師と連携し排便コントロールを行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	目安の曜日設定はあるが拒否があった場合は時間や日にちをずらす等の対応をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体力的に必要な場合は時間を決めて休んでいただいている 夜間不眠時は、傾聴や安心できるお声掛けを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情はファイルに保管し職員間でも周知出来るようにしている 症状の変化の確認し必要時は医師への報告、相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	庭の野菜を見に行ったり外にゴミを捨てに行ったりして建物外に出ている 他フロアへ訪問し交流もしている 塗り絵や工作は完成品を飾って達成感を共有している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別の外出はご家族の協力をいただいている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の持ち込みはお断りしているためご家族と一緒に買い物していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を使用している方は継続している 携帯をお持ちでない方は施設の電話を利用している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設が和モダンを意識した造りで証明も利用者は落ち着くと仰ってます 共有スペースは季節の飾りつけをしたりイベントの写真を飾って楽しんでます		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自分の時間を作りたい方は居室でゆっくり過ごしたり、気の合った利用者様同士で談笑したりして過ごされています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使っていた家具や身の回りの品を持参していただき居心地よく過ごしていただけるよう支援しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	導線を広く取り手すりを付けている バリアフリーで安全に移動できるよう配慮している		

2025年度

事業所名 ライブラリ相模大野

作成日： 2026年 4月 28日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	自由に外出が出来ていない。 ご家族のご理解と協力が必要。	ご本人が喜ばれる所にご家族と共に行きたい。 住んでいた家など。	ご家族の協力が得られる方からお誘いしてみる。	6ヶ月
2	65	民生委員の方がお辞めになられ現在、 地区の担当者不在。 また今期より自治会長の変更もあるので 運営推進会議に参加いただける方を 増やしていきたい。	地域の様子を情報共有し施設の活動も 知っていただき地域の一員として生活 していく	自治会の総会に参加し自治会にご挨拶 し今後の交流に参加する	2ヶ月